

平成15年度 公共事業再評価調書(土買川 広域基幹河川改修 事業)
 (事業着手後10年経過、着手後5年間未改修、再評価後5年経過、社会情勢の急激な変化)

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	建設交通部 河川課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果	[事業進捗の見込み]				
[河川名] 一級河川 つちかがわ 土買川 (箇所名) JR鉄道橋 ~心像川合流点 [所在地] 仙北郡西仙北町	[事業の目的] 下流部は国(直轄)で改修工事中であり、支川心像川はS51年度で改修工事を完了し、さらに、上流部は災関で改修完了している。これにより、中流部の流下能力不足の断面を拡幅し、浸水被害の解消を図る。 [総合計画上の位置づけ] ・あきた21総合計画の中で快適で安全な生活を実現するため災害に強い県土づくりの一環として、河川改修等の推進が位置づけられている。 [事業の内容] ○延長 3,700m ○築堤 5,730m ○掘削 352,100m ³ ○護岸 23,000m ² ○事業期間 S56~H27 ○計画高水流量 600m ³ /s	[事業の経緯] S56年 事業採択年 S57年 用地着手年 S60年 工事着手年 H27年 完成予定年 [進捗状況] ○全体事業費 当初 18.0億円 (内用地費 3.3億円) 見直し 29.7億円 (内用地費 3.3億円) ○投資事業費 19.6億円 (内用地費 0.2億円) ○進捗率 66.0% (内用地費 6.1%) [長期継続の理由] 河川事業全体の予算上の制約と、県下一円での災害の頻発によって、事業が長期化している。	[社会経済情勢の変化] ○災害発生時の影響(想定氾濫区域内) 浸水戸数 41戸 農地浸水面積 55.6ha ○過去の災害実績 最大浸水戸数 120戸(S40.7) 最大農地浸水面積 304.0ha(S40.7) (雄物川本川氾濫含む) ○災害発生時の危険度 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 約51% [地域の状況] ○地域の状況 ①地域開発の状況: 秋田新幹線、国道13号刈和野バイパス ②地域の協力体制: 地元自治体は協力的である。 ③関連事業との整合性の変化: 関連事業として雄物川中流部改修事業 ④地域の事業に対する社会的評価: 雄物川直轄区間との整合が必要である。 関連事業として雄物川中流部改修事業 ⑤地元からは、浸水被害を防止するため、土買川改修の早期完成を求められている。	[整備効果] 完成区間について浸水被害が軽減されており、治水効果が発現しているが、未改修区間は氾濫被害が発生している。 [費用の変化] 特になし [効果の変化] 物価上昇により資産価値が増加している。 [費用対効果] <table border="1"> <tr> <td>再評価時</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	1.01	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 事業を進める上で支障はなく、掘削、築堤、護岸整備は予定通り完成する見込みである。 3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点 [コスト削減の可能性] 引き続き必要最小限の護岸整備として、コスト縮減を図りながら事業を実施する。 [代替案立案の可能性] 代替案立案の必要性はない。
再評価時	1.01								
採択基準	1.00								
再評価の結果		対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見				
継続・中止		[対応方針(案)] 計画どおり、平成27年度の完成を図る。 [理由] 未改修区間が著しく蛇行しており、河積が狭小であることから洪水が発生しやすい状況にある。また、地域住民の水害防止に対する意識も高いことから、早期に改修を実施する必要がある。費用対効果も1.0を越えており、経済的にも妥当と判断される。							